

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年7月31日 ※1  
(前回公表年月日:令和5年4月6日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																					
資生堂美容技術専門学校		平成11年3月11日		大久保紀子		〒 173-0003 (住所) 東京都板橋区加賀二丁目15番1号 (電話) 03-3962-2561																																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																					
学校法人資生堂学園		平成10年3月30日		大竹政義		〒 173-0003 (住所) 東京都板橋区加賀二丁目15番1号 (電話) 03-3962-2561																																					
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																																			
衛生		美容専門課程		ビューティーコンサルタント科		平成22年文部科学省 告示第152号		—																																			
学科の目的		資生堂が培ってきた「おもてなしの心」を備え、お客さまのご要望や期待に応えられる優れた接客応対力と高い技術力、そして化粧品に関わる専門知識の修得と同時に、肌に関する専門的な知識と高いエステティック技術を修得した人材を養成する。																																									
認定年月日		令和5年3月27日																																									
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験		実技																															
2年		昼間		2010		555		405		1050		0		0																													
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数		時間																															
160人		167人		1人		8人		38人		46人																																	
学期制度		■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:100点から60点をABCD及びPとし合格とする。59点以下はFとし不合格とする。なお、成績評価値にはGPAを用いる。																																					
長期休み		■学年始:4月1日～4月9日 ■夏季:7月22日～8月24日 ■冬季:12月20日～1月9日 ■学年末:3月23日～3月31日		卒業・進級条件		卒業要件: 1. 各授業科目の必要履修時間を満たしていること。 2. 学則に定めた定期試験および各授業科目の成績評価において全て合格すること。 3. 年間の累計欠席時数が108時数を超えないこと。 4. 所定の授業料等を期限内に全て納めていること。																																					
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別カウンセリングや保護者毎との連携、及び個別アプリ配信等により学修支援を行っている。		課外活動		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学生会組織、ボランティア、エキスパートチーム、クリエイションチーム、チームOC、学園祭、体育祭 ■サークル活動: 無																																					
就職等の状況※2		■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) 化粧品メーカー、小売企業、エステティックサロン、ネイルサロン ■就職指導内容 就職担当教職員がキャリア授業を実施する他、担任教員と連携し指導と支援を行っている。主な就職先となる企業・団体との本校独自のネットワークを組織し交流会、業界セミナーや会社説明会を実施し連携を強化している。 ■卒業生数 78 人 ■就職希望者数 74 人 ■就職者数 74 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 95 % ■その他 ・進学者数: 2人 ・帰国者数: 1人 ・家事手伝い: 1人		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JBMAメイクアップ検定Professionalコース</td> <td>③</td> <td>78人</td> <td>78人</td> </tr> <tr> <td>認定エステティシャン検定</td> <td>③</td> <td>72人</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td>認定上級エステティシャン</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>マナー・プロトコール検定3級</td> <td>③</td> <td>71人</td> <td>52人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラリスト検定3級</td> <td>③</td> <td>56人</td> <td>47人</td> </tr> <tr> <td>アロマセラピー検定1級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>ネイリスト技能検定3級</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>24人</td> </tr> </tbody> </table>						資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JBMAメイクアップ検定Professionalコース	③	78人	78人	認定エステティシャン検定	③	72人	66人	認定上級エステティシャン	③	3人	3人	マナー・プロトコール検定3級	③	71人	52人	パーソナルカラリスト検定3級	③	56人	47人	アロマセラピー検定1級	③	22人	22人	ネイリスト技能検定3級	③	28人	24人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																								
JBMAメイクアップ検定Professionalコース	③	78人	78人																																								
認定エステティシャン検定	③	72人	66人																																								
認定上級エステティシャン	③	3人	3人																																								
マナー・プロトコール検定3級	③	71人	52人																																								
パーソナルカラリスト検定3級	③	56人	47人																																								
アロマセラピー検定1級	③	22人	22人																																								
ネイリスト技能検定3級	③	28人	24人																																								
(令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																																									

中途退学の現状	<p>■中途退学者 10名 ■中退率 6%</p> <p>令和4年4月1日時点において、在学者168名（令和4年4月1日入学者を含む） 令和5年3月31日時点において、在学者158名（令和5年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の本主な理由 進路思案・変更、体調不良</p>
	<p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任教員が定期的に個人面談を行い就学や生活面の相談を受けている他、必要に応じて保護者を交えて学年主任や教育部長が面接を行い中退防止に取り組んでいる。また、休学や再入学の制度により、復学の道を担保している。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度：優秀な成績を修めた在校生を表彰し資金（6～18万円）を給付する制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体： 受審年月： 評価結果を掲載したホームページURL</p>
当該学科のホームページURL	<p><a href="https://academy.shiseido.co.jp/courses/beauty-consultant-course/">https://academy.shiseido.co.jp/courses/beauty-consultant-course/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程を編成するにあたり、教育課程編成委員会を年2回開催し、専攻分野である美容業を主とする企業や団体等に所属している委員から意見や助言を聞き、美容業界の状況を把握している。  
流行の移り変わりが早い社会環境において、美容業界の最新情報や知見を有している企業・団体等と実践的な授業科目の開設や、教育効果の高い授業内容・方法について検討できることを基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記  
教育課程編成委員会は、職業教育の水準の維持向上を目的に学校長を委員長として設置し、教育機関や関連する業界団体等と連携して、実践的な教育課程の編成や授業方法、実習指導等の改善・見直しのために必要な提言等を行うものとする。提案された内容は学校長を議長とする管理職会議で検討し、最終的にカリキュラムに組み込むかどうかを決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
益山 光一	レギュラトリーサイエンス学会の評議員 東京薬科大学薬学部医療薬物薬学科 教授	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	②
武田 玲奈	株式会社資生堂 ビューティークリエイションセンター ブランドアソシエイト グループマネージャー	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
高宮 実	日本エステティック協会 理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
横田 由香	資生堂ジャパン株式会社チーフビューティーストラテジーオフィサー美容戦略部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
大久保 紀子	資生堂美容技術専門学校 校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
佐藤 敬	資生堂美容技術専門学校 新規事業部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
片岡 由香	資生堂美容技術専門学校 美容師科教員	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
橋立 久美	資生堂美容技術専門学校 教育部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
鈴木 和江	資生堂美容技術専門学校ビューティーコンサルタント科教員	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)  
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)  
②学会や学術機関等の有識者  
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
(年間の開催数及び開催時期)  
年2回 (8月、3月)  
  
(開催日時(実績))  
第1回 令和4年8月24日 14:00～16:00  
第2回 令和5年3月1日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況  
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。  
・思考力と行動力を強化するための強化を行い、コンピテンシーとリテラシーを客観的に測定するアセスメントテスト「PROG」を導入し、社会で必要な汎用的な力の可視化を行うようカリキュラムを改善した。  
・主体性を強化するためにPBL(問題解決型・課題解決型)プログラムを美容教養1に導入するようカリキュラムを改善した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

・当校の教育理念である「美しく生きる」をかなえようを実践する為に、業界で実際に働いている講師を招聘し、美容業界で役立つ知識・技能を身に付けさせる。講師選定にあたっては学生が社会人となった時にすぐに活用できるように現在、業界で活躍中の業界人を条件としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・当校の教育理念や職業実践的な授業目的を説明のうえ、授業での連携について契約している
- ・実践的な授業となるよう、連携企業等の担当者と共同でシラバスを構築し、実習や演習授業等を実施している
- ・学習成果を図る「習得確認」等を共同で行うことで成績評価を行い連携している

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
応対2(応用)	美容のプロとして、「美しく生きることを自ら体現」し、応対を行うことができること、「お客様が目指す美しさを叶えられる」ために必要な応対の基礎知識を理解し、「基本応対初級編」を習得する。	資生堂ジャパン株式会社
エステティック実習1	ボディエステティックの基本的な工程と基礎テクニック習得し、基本的なエステティック応対を理解し、実習につなげる。	株式会社ザ・ギンザ
コスメマーケティング1(デジタル)	美容のプロフェッショナルとして、必要な化粧品市場の基礎知識を習得すること、またお客様に商品を魅力的に感じていただくために必要な「見せ方・伝え方」のスキルとそれを行う時のルールを習得する。	株式会社アイスタイル
ユニバーサルサービス	美容の専門家としての接客・応対において、サービスの質を高めるための知識・意識を学び、顧客満足度を高めるための気配り・配慮を習得する。高齢者・視覚障がい者・聴覚障がい者・車いす使用者等多様性の理解を深め、お困りごと・サポート提供への知識とスキルを学び、実践につなげる。	一般社団法人公開経営指導協会
コスメティック1	化粧品市場と主要な化粧品ブランドの基本的な情報を把握し、お客さまに化粧品の価値を伝えるための知識とトレンド情報をキャッチする感性を身につける。	スチーム 有限会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教職員研修規程の第1条から第6条に、研修の目的、研修の種類、研修の選定、研修の受講、研修期間中の労働時間、雑則を定め、教員の研修機会を設けている。 受講する研修は、授業科目に必須となる資格取得のための研修や、新しい技術習得の研修、クラス運営や学生支援に関する研修等、学生指導力の向上に繋がるものを基本方針としている。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 今すぐ使える! Beauty Trend MAKE UPオンライン講座	連携企業等: 一般社団法人ジャパンビューティメソッド協会
期間: 令和4年7月4日	対象: 教育部 ビューティーコンサル タント科教員
内容 トレンドに合うメイクテクニックを身に付け、店頭で使えるポイントを学ぶ	
研修名: 化粧品で学ぶ心理学	連携企業等: 東北大学
期間: 令和4年11月22日	対象: 教育部 ビューティーコンサル タント科教員
内容 化粧品に関する心理学的な研究を通じて、心理学の様々な領域を学ぶ	
研修名: 「ミドル世代に多い肌トラブル対策」セミナー	連携企業等: 一般社団法人 日本エステティック協会
期間: 令和4年12月13日	対象: 教育部 ビューティーコンサル タント科教員
内容 更年期以降の女性ホルモンの影響による肌トラブル(乾燥、肌荒れ、シミ)でお悩みのお客様に適切なお手入れ、カウンセリング、化粧品の選択、トリートメントのポイントを学ぶ	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: コミュトレ プレゼンテーション研修	連携企業等: 株式会社 アイソルート
期間: 令和4年4月24日	対象: 教育部 ビューティーコンサル タント科教員
内容 人前で自信をもって話し、人に影響を与えることができるスピーチやプレゼンテーションができることを目標とし、人間心理のメカニズムから人に影響を与えるスキルを身につける	
研修名: 色彩の知識を深める	連携企業等: 株式会社東洋インキ
期間: 令和4年8月10日	対象: 教育部 ビューティーコンサル タント科教員
内容 色の技術で社会貢献を行う「東洋インキ」「資生堂」の取組みを知るとともに、「調色実技」「100色相配列テスト」を実施し色彩の知識を深める	
研修名: 令和4年度学校安全講座 食物アレルギーの基礎知識と緊急時対応について	連携企業等: 東京都私学財団
期間: 令和4年10月21日	対象: 教育部 ビューティーコンサル タント科教員
内容 食物アレルギーに関する基礎知識、食物アレルギーを持つ生徒への対応とイベントレーナーの実習	
(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: JBMA対策講習会・検定 認定講師養成コース	連携企業等: 一般社団法人ジャパンビューティメソッド協会
期間: 令和5年12月11～14日	対象: 教育部 ビューティーコンサル タント科教員
内容 高いメイクアップ技術力・美容理論・インストラクション技術を取得する	
研修名: JBMA対策講習会・検定 Expertコース	連携企業等: 一般社団法人ジャパンビューティメソッド協会
期間: 令和6年1月15～17日	対象: 教育部 ビューティーコンサル タント科教員
内容 モードの要素を取り入れたボリューム感のあるメイクアップ技術の習得する	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: ～ 溝上慎一 と大学教育について考える ～「教学マネジメント」実践事例セミナー	連携企業等: 株式会社リアセック
期間: 令和5年6月23日	対象: 教育部 ビューティーコンサル タント科教員
内容 社会ニーズ調査 #学修成果の可視化 #ディプロマ・サブリメント	
研修名: コーチング研修	連携企業等: 公益財団法人 東京都私学財団
期間: 令和5年7月31日	対象: 教育部 ビューティーコンサル タント科教員
内容 コーチングの基礎や基本的な技術や教育コーチングスキル等を講義とグループワークを通して学ぶ	
研修名: 教員実践研修 指導力養成講座	連携企業等: 公益社団法人 東京都専修学校各種学校協会
期間: 令和5年6月～8月(全6回)	対象: 教育部 ビューティーコンサル タント科教員
内容 教育指導スキルの向上と共有、部下の育成に対する指導力向上を目指す研修	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・自己評価の結果について「外部委員による評価」を実施し、自己点検・自己評価についての検証を行う。外部委員には、関連する業界・高等学校・地域・卒業生・保護者等に務めていただき、当校の教育活動および学校運営について客観的な評価・助言を行っていただく。学校関係者評価委員会の評価・提言については次年度の事業活動計画の中で「自己点検に対する学校関係者の助言等」として検討課題に挙げ、改善に取組むことを基本方針としている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	自己評価報告書 基準1. 理念・目的・育人人材像(5~8頁)
(2) 学校運営	自己評価報告書 基準2. 学校運営(9~16頁)
(3) 教育活動	自己評価報告書 基準3. 教育活動(17~26頁)
(4) 学修成果	自己評価報告書 基準4. 学修成果(27~30頁)
(5) 学生支援	自己評価報告書 基準5. 学生支援(31~40頁)
(6) 教育環境	自己評価報告書 基準6. 教育環境(41~46頁)
(7) 学生の受入れ募集	自己評価報告書 基準7. 学生の募集と受入れ(47~51頁)
(8) 財務	自己評価報告書 基準8. 財務(52~58頁)
(9) 法令等の遵守	自己評価報告書 基準9. 法令等の遵守(59~64頁)
(10) 社会貢献・地域貢献	自己評価報告書 基準10. 社会貢献・地域貢献(65~68頁)
(11) 国際交流	自己評価報告書 基準10. 社会貢献・地域貢献(65~68頁)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

外部の評価委員から「持続可能な開発目標の感覚を教育活動及び人材育成の中に取り入れていただきたい。」という助言があった。これを受け、SDGsについて学習しワークショップで更に自ら考えることを授業に導入した。また、教育課程外で実施した国内研修プログラムでもSDGsを学ぶ研修内容を構築し、実施するに至った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
久保園 博幸	日本ヘアデザイン協会	令和5年5月22日~令和6年3月31日(2年)	関係業界
白坂 春光	ヴィサーージュクリエーション	令和5年5月22日~令和6年3月31日(2年)	関係業界
掛川 達雄	埼玉県立南稜高等学校	令和5年5月22日~令和6年3月31日(2年)	高等学校
竹澤 喜孝	加賀五四自治会	令和5年5月22日~令和6年3月31日(2年)	地域住民
岡元 美也子	資生堂ビューティークリエーションセンター	令和5年5月22日~令和6年3月31日(2年)	卒業生
二木 桃絵	学生保護者	令和5年5月22日~令和6年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )  
 URL: <https://academy.shiseido.co.jp/disclosure/>  
 公表時期: 令和5年2月17日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

下記(2)ガイドラインに基づく項目の情報をホームページ上に公開している。

また、主に入学希望者向けパンフレットにも学校の概要、教育内容、就職状況等、入学から卒業までの課程・取組みを掲載している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校名・校長名・所在地・連絡方法・学校の沿革・教育理念
(2) 各学科等の教育	・取得目標資格
(3) 教職員	・職掌別人数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア支援・就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	・主な学校行事
(6) 学生の生活支援	・生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	・入学金・学納金・奨学金と教育ローン
(8) 学校の財務	・学校財務財務情報: 貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	・学校評価(1)学校自己評価報告書および評価結果を踏まえた改善方針
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )  
 URL: <https://academy.shiseido.co.jp/disclosure/>  
 公表時期: 令和5年6月30日

## 授業科目等の概要

(美容専門課程ビューティーコンサルタント科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	講 義	演 習	実験・実習・実技	場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択								校内	校外	専任	兼任	
1	○			メイクアップ理論	多様化するお客さまのニーズに対応できる技術を身につけるための基本的理論を学ぶ。	1前	15	○			○	○			
2	○			スキンケア理論1	多様化するお客さまのニーズに対応できる技術を身につけるための基本的理論を学ぶ。	1通	30	○			○	○			
3	○			スキンケア理論2	年齢により変化する肌状態と季節や環境による肌への影響と肌悩みに関する致死と肌分析方法を学ぶ。	2前	30	○			○	○			
4	○			スキンケア理論3	肌状態となりたい肌に応じて、最適なスキンケア化粧品の提案と美容方法を学ぶ。	2後	15	○			○	○			
5	○			対応理論1	対応に必要な基礎知識と基本対応を理解し、好感が持てる第一印象（所作、立ち居振る舞い、言葉遣い、マナー）を学ぶ。	1通	30		○		○	○			
6	○			対応理論2	お客さまの気持ちに合わせたコミュニケーション方法を学ぶ。	2前	15		○		○	○			
7	○			コスメマーケティング1（デジタル）	お客さまに商品を魅力的に感じていただくために必要な「見せ方・伝え方」のスキルと、それを行う時のルールを理解し、コンテンツ作成や結果分析を学ぶ。	1通	30		○		○	○		○	
8	○			コスメマーケティング2	美容に関する職業に関して、業務内容や働く環境、店舗特性、美容職として求められる事を学び、目指す職業について理解する。コスメマーケットの仕組みを知り、化粧品やモノづくりについて学ぶ。	1後	30		○		○	○		○	
9	○			コスメマーケティング3	マーケティングの基礎知識である生活者とコスメマーケット・ブランドや商品の成り立ち、関連性を知り、生活者の購買行動や購買ニーズを学ぶ。	2前	30		○		○	○		○	
10	○			コスメマーケティング4（文化）	美容接客者として、化粧の起源、変遷や世界各国に伝わる文化的背景の知識を学ぶ。また、マーケティングと色の関わり、店舗特性と目的に合わせた色の活用方法を学ぶ。色覚多様性に配慮したカラーユニバーサルデザインについて理解し、お客さま起点の対応力を学ぶ。	2後	30		○		○	○		○	
11	○			マナープロトコール	お客さまのご要望に対応できるよう、プロトコール、社交の場やビジネスシーンのマナー、冠婚葬祭や年中行事など、マナーの基本知識とスキルをトータルに学ぶ。	1前	15		○		○	○		○	

12	○		ユニバーサルサービス	高齢者、お身体の不自由なお客様など様々な個性・特徴のあるお客様への配慮や気づきを実践できるサポート技術を身につけるための知識と技術を学ぶ。	2後	15		○			○			○	○
13	○		パーソナルカラー	チェックシートやカラーカード配色を用い、髪、肌、瞳、頬、唇の色素と質感を分析し、パーソナルカラー診断の方法を学ぶ。	1通	30		○			○			○	
14	○		アロマテラピー	精油のプロフィールと香り、実習を含めて精油の活かし方、安全な使用方法、利用方法など、ヘルスケアやビューティケアへと活かせるアロマテラピーについてを学ぶ。	2通	15		○			○			○	
15	○		コミュニケーション1	コミュニケーションマナーや心構えを身につけ、自分の個性を生かしたプレゼンテーションとコミュニケーションを学ぶ。	1通	30				○				○	
16	○		コミュニケーション2	人の行動指針となるプログラムを知り、相手にアプローチができる、言語コミュニケーションスキルと非言語コミュニケーションスキルを学ぶ。	2通	30				○				○	
17	○		プレゼンテーション1	プレゼンテーションの基礎を理解し、相手を理解する聴く力を醸成し、五感を働かせて共感・共鳴でき、それを伝えるスキルを学ぶ。	1通	30				○				○	
18	○		プレゼンテーション2	プレゼンテーションの目的を理解し、聴き手の立場に立って、聴き手に具体的に行動を起こさせるために必要な聴く力、共感、伝える、説明、行動を促すクロージングのスキルを学ぶ。	2通	30				○				○	
19	○		英会話1(基礎)	海外の人との意思疎通(コミュニケーション)を楽しみながら、海外のお客様のご要望や期待に応えられる優れた接客力を身につけるため、店頭各シーンでの短い会話を題材にして、発音・基本フレーズを学ぶ。	2後	30				○				○	
20	○		英会話2(応用)	海外のお客様への接客シーン(挨拶、コンサルテーション、提案、お会計、お見送り)で、一連の会話を自分の言葉で出来るようにロールプレイングにて学ぶ。	2後	15				○				○	
21	○		中国語	今後のグローバル化に向けて、中国語で接客で中国に関する基礎知識を理解した上で化粧品に関する単語、表現を学ぶ。	2後	30				○				○	
22	○		コスメティック1	化粧品市場と主要な化粧品ブランドの基本的な情報を把握し、お客様に化粧品の価値を伝える知識を学ぶ	1通	30					○	○		○	○
23	○		コスメティック2	化粧品市場の現状とブランドについての知識を習得し、お客様に化粧品の価値を伝えるための知識を学ぶ。	2通	30					○	○		○	○
24	○		メイクアップ1(基礎)	メイクアップの基本技術と標準のプロポーションを理解し、どのような顔立ちに対しても一定の水準までメイクをアップを美しく仕上げられる技術と知識を学ぶ。	1前	60					○	○		○	
25	○		メイクアップ2(応用)	標準のプロポーションとスペースバランス理論を用いて顔分析を行い、要望に合わせて最適なメイクアップのプランニングができる知識と技術を学ぶ。	1後	60					○	○		○	



26	○		メイクアップ3 (発展)	イメージ表現の理論を理解し、お客さまの顔立ち、肌などの特徴を捉えて分析ができる知識と、肌作り、パーツメイクアップのボリューム感、スケール感を出せるテクニックを学ぶ。	2前	60					○	○	○				
27	○		メイクアップ4 (展開)	モデルに似合うモードを意識したボリューム感、スケール感のあるメイクアップを出せるテクニックを学ぶ。様々な年代・ジェンダーに対応できるメイクアップ知識とテクニックを学ぶ。	2後	30					○	○	○				
28	○		スキンケア1 (基礎)	スキンケアの基本的な手技を習得し、正しい手順と効果的な使用方法を学ぶ。	1前	45					○	○	○				
29	○		スキンケア2 (応用)	正しい手順と効果的な使用方法を理解し、お客さまの顔立ちに合わせた効果的なスキンケア方法を学ぶ。	1後	45					○	○	○				
30	○		スキンケア3 (発展)	お客さまの肌状態と顔立ちに合わせて、短時間でも効果的なスキンケアを学ぶ。	2前	30					○	○	○	○			
31	○		応対1 (基礎)	好感が持てる「第一印象(姿勢・表情)」および「美しい立ち居振る舞い」や「言葉遣い」を学ぶ。	1前	45					○	○	○	○			
32	○		応対2 (応用)	お客さまから好感が持たれる第一印象を身につけ、お客さまとコミュニケーションを取りながらカウンセリングを行い、美容提案ができる技術を学ぶ。	1後	45					○	○	○	○			
33	○		応対3 (発展)	お客さま一人一人の目指す美しさを叶えるために必要なカウンセリングスキルとコンサルテーションスキルを学ぶ。	2前	60					○	○	○	○			
34	○		応対4 (展開)	最適な美容法と化粧品の「提案」及び美容のプロとして、お客さまに更に美しくなっていくための「更なる提案」、お客さまに再来店をいただくためのクロージングを学ぶ。	2後	90					○	○	○	○			
35	○		生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを保つための負のフィードバック機構とその具体例及びホメオスタシスを制御する脳と3つの配線(自律神経系、内分泌系、免疫系)について学ぶ。	1前	15			○			○			○		
36	○		衛生管理	公衆衛生・消毒・感染症に関する知識を習得し、具体的な洗浄・消毒の手法・技術を他者へ指導できる知識を学ぶ。	1前	15			○			○			○		
37	○		栄養学	栄養についての基礎知識、消化と吸収、健康と栄養、サプリメントや食品添加物などについて学ぶ。	1後	15			○			○			○		
38	○		解剖生理学1	人体の仕組み、構造や機能について、細胞レベルから骨、筋肉、臓器や脳について学ぶ。	1後	15			○			○			○		
39	○		解剖生理学2	運動の基本となる筋肉の関係や関係する器官について理解し、運動による老化防止やエネルギー代謝について学ぶ。	2前	15			○			○			○		

40	○		化粧品学	化粧品について、法規、分類、品質保証、取り扱い留意点について正しい知識を学ぶ。	1後	15		○			○				○	
41	○		皮膚科学	皮ふの構造と仕組みについて十分に理解し、皮ふの基本知識、皮ふの6つの働き、肌の美しさを損ねる要因、様々な肌状態、肌と環境、肌分析法を様々な視点から学ぶ。	2前	30		○			○				○	
42	○		エステティック理論1	エステティックの歴史や領域を知り、電気学などエステティックトリートメントを施すのに必要な知識およびホスピタリティマインドの意義を学ぶ。	1通	30		○			○				○	
43	○		エステティック理論2	エステティックに関する法律や経営に関する基礎知識、サロンにおける救急法を理解し、実践する能力を学ぶ。	2通	30		○			○				○	
44	○		エステティック実習1	エステティックに関するボディの基礎的な工程や基礎テクニック、各手技の効果を理解したトリートメントを学ぶ。	1前	45					○	○			○	○
45	○		エステティック実習2	フェイシャルエステティックの基本的な工程や基本手技を習得し、機器を使用したクレンジングの応用を学ぶ。ボディエステティックでは、ボディ機器を使用した応用的なボディトリートメントを学ぶ。	1後	90					○	○			○	○
46	○		エステティック実習3	フェーシャルトリートメントの基本手技の目的と効果を理解し、お客さまの様々な悩みに対して、トリートメントプランの組み立てができ、ホームケアアドバイス法を学ぶ。	2前	60					○	○			○	○
47	○		エステティック実習4	様々なメニューを習得し、実際のサロンを想定したお出迎えからお見送りまでの実習を行い、カウンセリング力と対応力を学ぶ。	2後	45					○	○			○	○
48	○		トータルプロデュース	就職活動に必要なヘアメイクの技術とセルフプロデュース力を学ぶ。ネイルの基礎技術であるネイルケア、カラーリング、アート、応用としてジェルネイル技術を学ぶ	1通	60					○	○			○	○
49	○		ライフスタイルカウンセリング1	人の基本動作である立つ・座る・歩くといった日常生活で多く行われている動作の姿勢やポジショニングについて美容上の観点から理解し、運動の作り方を学ぶ。	1後・2前	30					○	○			○	
50	○		ライフスタイルカウンセリング2	お客様に必要な「カウンセリング」と「コンサルティング」の両方を的確に使い分けていく手法を学ぶ。心理的カウンセリングの手法を駆使し、お客様のライフスタイルや健康・肌情報などを収集し、お客様一人ひとりに合わせたコンサルティングを学ぶ。	2通	30		○			○				○	
51	○		ファッションコーディネート1	メイク・ヘア・ファッションなどのトータルコーディネート基本的概念とファッションの基礎知識を習得し、「自分の似合う」セルフプロデュースの基礎と応用を学ぶ。	1前	15					○				○	
52	○		ファッションコーディネート2	自分に似合うものを理解し、お客様の似合明確なアドバイスと説得力のある提案「他社プロデュース力」を学ぶ。	1後	15					○				○	
53	○		総合クリエイション	学園で学んだ知識・技術を総合的に包括し作品制作を行い、発表会に至るまでのプロセスとしてディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを実施し、自主性と主体性を学ぶ。	2通	90					○	○			○	

54	○	キャリア育成1	就職試験に向けて必要な企業研究と自己分析を通じ、目指す企業に合わせた履歴書、エントリーシートの作成、自己アピール、活動プランニングを他者に説明できるよう実践を学ぶ。	1通	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	○	キャリア育成2	社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）の習得とブレインストーミングやロジカルシンキングを行い、学生一人ひとりが自ら考え、意見を伝えられることを学ぶ。	2通	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56	○	導入教育	学園に入学した目的を改めて確認し、自分の意思で自発的に学習を行うことが必要であることを知ることと2年間の学びを理解し、学習の基礎となる「シラバス」を知り、学習の進め方、専門教育に必要なことを学ぶ。	1前	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
57	○	実務実習1	業界・企業・職業理解を深め、実際の店頭活動から接客対応を体験し、美容領域における高度な知識と技術に触れ、社会人基礎力や基礎的・汎用的能力などの社会人としての能力を高め、自主的に考え行動することを学ぶ。	1後	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	○	実務実習2	実際の店頭活動からプロフェッショナルの接客対応を体験し、基礎的・汎用的能力を高め、実際の週力に向けて、自身のスキルの過不足を知り、課題解決に向けたスキルを学ぶ。	2前	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	○	美容教養（美しく学ぶ）1	社会で求められるコミュニケーション力や相手を大切にすることを醸成し、楽しみを分かち合いながらチームワークを学び、社会人としての常識や他社とのコミュニケーションが多様に出来るような思考を養う。	1通	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
60	○	美容教養（美しく学ぶ）2	豊かな人間性と総合的能力を社会で活かすための行動力へ発展させる。美容のプロフェッショナルとして活躍出来る実践力へ発展させることが出来るこにゆにケーションや思考力を学ぶ。	2通	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
合計				60 科目				2010 単位（単位時間）												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 学則に定めた所定科目の成績評価において全て60点以上で合格すること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学則に定めた通り、60科目を全て履修すること。		1 学期の授業期間	22 週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。